

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 二島小 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

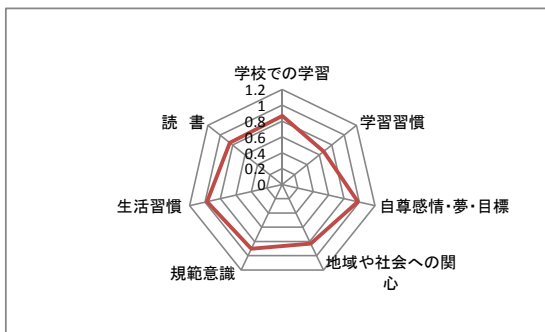
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率とほぼ同程度である。 ・読み取る課題は比較的できているが、話すこと、聞くことに関する問題に課題がある。話を整理して伝えたり聞き取ることに取り組む必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>同程度</b>
	よくできた問題	言葉を手掛かりに情景を捉える課題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	話すこと、聞くことに関する課題に苦しさがある、意図を的確に伝える表現力を高める必要がある。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均と比べると下回るが、大きな開きはない。 ・読み取る課題はできているが、書いて答える問題に苦しさがある。自分が読み取った内容をわかりやすく整理し、伝える力を育てる必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	・物語を読み取り、場面の状況をつかむことはできている。	
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、引用したり、必要な内容を整理したりして書く力を高める必要がある。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的にどの領域も全国平均より下回っている。 ・面積や角度など図形に関する課題は苦しさを持っている。基本的な計算が正しくできるようにする必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	・加法と乗法が混在した問題の計算は正答率が全国平均よりも高かった。 ・具体的な場面設定の課題や公倍数を求める問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・3ケタの数を使った乗法や少数の入った計算を正しくできるようにする必要がある。また、与えられたデータから必要な情報を取り出すなど論理的な思考力を育てる必要がある。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的にどの領域も全国平均より下回っている。 ・数の関係を記述する問題には苦しさがある。関係を捉え、それを説明することができるように表現する力を伸ばす必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	考え方を整理し、数を変更した場合も関係が成り立つことは理解できている。	
	努力が必要な問題	割合を求めたり、割合を示す図を選んだりすることが苦手である。基準量と比較量の関係を図で表すなどの取組が必要である。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での学習習慣が身につけていない子どもが多い。宿題はほとんどの子どもがしているが、自分で計画を立てて行う子どもは少ない。</li> <li>・課題には真面目に取り組むが、主体的に学習に参加して発表をしたり、説明をしたりすることが苦手である。</li> <li>・自尊感情は比較的高く、自分を高めたいという意欲はある。</li> <li>・意欲はあるが、目標を達成するための手立てに、主体的に取り組むことができていない状況がある。手立てを具体的に示すことで、それに向かって主体的に取り組む力を育てる必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・文章を読み取ることはできるが、その内容から分かることなどを表現することが苦手である。表現力を高める手立てとして、視写を行い、模範的な文章を知らせたり、授業での発表の際のパターンを決めて、それにしたがって発表させたりするなど、発表の仕方を学ばせることで、表現をすることの抵抗感を少なくする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・与えられた課題は行いが、主体的に学ぶ姿が少ない。プリントやドリル等の課題だけではなく、自学などを取り入れ、学ぶ楽しさを味わわせるとともに、主体的に学ぶ力を育てる必要がある。将来の夢へ向けて必要な力を具体的に示すなど、キャリア教育なども小中連携を行いながら取り組むことも重要である。